

A 共同利用を支える情報

基礎から標準へ | 解答と根拠

記述は、必要な内容と条件がそろえば、解答例と表現が違っていても正答です。練習A～Cは点数を付けず、内容を確認しましょう。

問1 中心内容

答え：ア

解説 ①の問題を②～⑤で解決・調整し、⑥で共同利用を支える情報の仕組みへまとめている。
確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問2 要約に残す対比 7字

答え：利用できること

解説 棚にあるかだけでなく、予定・付属品など利用できる状態を問題にしている。
確認する内容 抜き出しは完全一致で確認する。句読点も本文どおりに書く。

問3 具体例をまとめる

答え：エ

解説 時刻・付属品写真・連絡欄を、その働きで上位にまとめた表現。写真の目的は操作の説明ではない。
確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

A 共同利用を支える情報

基礎から標準へ | 解答と根拠 | つづき

問4 要約の客観性

答え：イ

解説 筆者の説明にない書き手自身の好みと普及の主張が混ざっている。要約では本文の内容を客観的にまとめる。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問5 段落要約 解答例 49字

解答例：返る予定と付属品などの状態を共有し、道具の場所だけでなく、いつ使えるかを利用者が判断しやすくした。

解説 写真や欄の細部を列挙するのでなく、共有する情報と働きにまとめる。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 予定の共有／付属品等の状態／利用時期・可否の判断。字数・指定語句・文末も確認する。

問6 要約の範囲 解答例 60字

解答例：記録を細かくしすぎると続けにくいため、次の利用者が予定を立てるのに必要な情報を選び、使いながら記録の項目を見直したこと。

解説 遅れの理由欄・連絡先欄は中心を支える具体例。「必要な情報を選び直した」が要約で残す働き。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 詳しすぎる記録の負担／次の予定に必要な情報／項目の見直し。字数・指定語句・文末も確認する。

A 共同利用を支える情報

基礎から標準へ | 解答と根拠 | つづき

問7 誤った要約の修正 解答例 66字

解答例：返す予定や付属品の共有だけでは安全を確かめられないため、初めて使う道具は大人に確認し、壊れた道具は別に置いて知らせる仕組みを残した。

解説 情報共有による利用調整と、安全確認は別である。誤った断定を否定するだけでなく正しい仕組みを述べる。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。
確認する内容 情報共有だけでは安全確認できない／初めて使う道具の確認／破損時は別置き・連絡。字数・指定語句・文末も確認する。

問8 全体要約 解答例 91字

解答例：道具を必要なときに共同で使えるよう、返す予定と付属品などの状態を共有し、次の利用に必要な記録へ見直した。安全の確認は別に行い、物を集めるだけでなく次の利用へ情報を渡す仕組みを整えた。

解説 個々の出来事を時系列で全て並べず、目的→方法→調整・条件という骨組みを残す。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。
確認する内容 共同利用の目的／予定と状態／必要な記録への見直し／安全確認を別に保つ。
字数・指定語句・文末も確認する。

B 地域の語りを記録する

標準 | 解答と根拠

問1 要約の中心

答え：イ

解説 ①の資料の性質を②～⑤の方法・条件で具体化し、⑥でまとめている。
確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問2 中心となる関係 15字

答え：事実の確認と、語りの意味の理解

解説 読点も本文どおりに含める。出来事確かめることと、人がどう覚えるかを理解することは同一ではない。
確認する内容 抜き出しは完全一致で確認する。句読点も本文どおりに書く。

問3 具体例の抽象化

答え：ウ

解説 音の種類を列挙する代わりに、語りの違いを生む条件へまとめる。本文はどちらの音が正しいか決めていない。
確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

B 地域の語りを記録する

標準 | 解答と根拠 | つづき

問4 条件の保持

答え：ア

解説 短くしても対比やためらいという関係を残す。前半または後半だけでは語りの意味が変わる。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問5 部分要約 解答例 52字

解答例：語りの違いをすぐ誤りとせず、立場や状況を記録し、資料で確かめる事実と、その人の受け止め方を分けて捉える。

解説 音の具体例を省き、違いの背景と確かめ方を残す。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 違いを即誤りとししない／立場・状況記録／事実と受け止めの区別。字数・指定語句・文末も確認する。

問6 対比を残す 解答例 64字

解答例：長い話を短くするときも、編集者に都合のよい部分だけを選ばず、対比やためらいを残し、本人に内容を確認してもらって意味の変化を防ぐ。

解説 要約は削る作業だが、重要な関係を消してはいけない。対比と確認の方法を含める。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 都合のよい切り取りを避ける／対比やためらいの保持／本人確認。字数・指定語句・文末も確認する。

B 地域の語りを記録する

標準 | 解答と根拠 | つづき

問7 誤った要約の修正 解答例 68字

解答例：聞き取った内容の全てを公開するのではなく、語り手に確認し、他の人の私的な出来事などへの影響も考えて、名前を伏せたり掲載を見送ったりする。

解説 記録の正確さと公開範囲を混同しない。語り手だけでなく関わる人への影響も必要。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 記録と公開の区別／語り手への確認／他者への影響と適切な編集。 字数・指定語句・文末も確認する。

問8 全体要約 解答例 91字

解答例：聞き取りは現在の立場から語られる過去の資料である。語りの条件や違いを残し、事実は他の資料と確かめ、短くしても対比などの意味を保つ。本人や関係者への影響を考え、公開する範囲も確認する。

解説 導入の資料の性質を残すと、方法だけの箇条書き的な要約を避けられる。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 現在からの過去の語り／条件や違い・資料照合／意味関係を保つ編集／公開範囲の確認。 字数・指定語句・文末も確認する。

C ひな型と判断を引き継ぐ

発展・応用 | 解答と根拠

問1 論旨の骨組み

答え：ウ

解説 ①で働きを示し、②の問題から③～⑤の改善を説明し、⑥で判断を支える引き継ぎへまとめる。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問2 要約の中心語 15字

答え：形式が支える判断を受け取ること

解説 書式だけでなく理由を理解し、状況が変わったときにも使える判断を引き継ぐことが中心。

確認する内容 抜き出しは完全一致で確認する。句読点も本文どおりに書く。

問3 抽象化の適切さ

答え：ア

解説 具体物の長靴を一般的な問題にまとめる。必要以上に原因や範囲を広げない。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

C ひな型と判断を引き継ぐ

発展・応用 | 解答と根拠 | つづき

問4 意見を混ぜない

答え：エ

解説 エは⑥の考えをまとめている。アは要約者の好み、イは本文にない断定、ウは人物への根拠のない評価である。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問5 部分要約 解答例 52字

解答例：共通の情報と毎回変わる情報を分け、各欄を参加者が何に使うかも示すことで、今回必要な内容を考えやすくした。

解説 日時など四項目を列挙するより、分類と役割という工夫を残す。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 共通・変化の区別／各欄の目的の提示／今回の内容を考える働き。字数・指定語句・文末も確認する。

問6 目的に応じた要約 解答例 56字

解答例：普段使うひな型を簡潔にして作業の速さを保ちつつ、特殊な場合は別の確認表で必要な点を検討できるよう、情報を分けた。

解説 目的は情報を減らすことだけでなく、通常と例外への対応の両立。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 通常の簡潔さ・速さ／特殊な場合の確認／層を分けて両立。字数・指定語句・文末も確認する。

C ひな型と判断を引き継ぐ

発展・応用 | 解答と根拠 | つづき

問7 過度な一般化の修正 解答例 66字

解答例：ひな型を変えた理由も伝えることで、新しい担当者が別の場面でも判断を応用し、共通部分や例外への対応を状況に合わせて見直せるようにする。

解説 理由の共有は永久固定のためではなく、判断の応用と更新のため。主語と目的が分かる文にする。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。
確認する内容 理由を伝える／判断を他の場面に応用／状況に合わせて見直す。 字数・指定語句・文末も確認する。

問8 全体要約 解答例 95字

解答例：ひな型は共通部分をそろえて作業を助けるが、今回の内容の適切さは別に確かめる必要がある。変わる情報と例外の確認を分け、変更理由も伝えることで、次の担当者が状況に合わせて判断し直せるようにする。

解説 便利か不便かという単純な賛否にせず、働きと条件、引き継ぎの中心をまとめる。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。
確認する内容 共通部分による支援／今回の内容確認／変化情報・例外の区別／理由と判断の引き継ぎ。 字数・指定語句・文末も確認する。

D 展示を読む入口

実力確認テスト | 解答と根拠 | 100点満点

配点のあるDのみ100点満点です。記述は内容ごとに部分点を付け、同じ不足を二重に減点しません。字数・条件も確認します。

問1 資料の役割 (10点)

答え：ウ

解説 提案の目的・方法と、試行の結果・限界・次の課題を分けて読む。IIは全員への効果を確認していない。

採点の目安 正答10点。

問2 提案の目的 (10点) 24字

答え：道具を見ることと読むことを行き来できるようにする

解説 短くすることや別紙を配ることは手段。目的は実物と説明の往復である。

採点の目安 完全一致で10点。句読点も本文どおりに書く。

問3 要約の断定を点検する (10点)

答え：イ

解説 ⑤は比較条件と協力者の代表性が不足するため、全員への改善を結論できないと明示する。

採点の目安 正答10点。

D 展示を読む入口

実力確認テスト | 解答と根拠 | 100点満点 | つづき

問4 具体例を上位にまとめる〔10点〕

答え：エ

解説 共通する一つの成功談へまとめず、異なる進み方と短文の働きを保つ。
採点の目安 正答10点。

問5 資料Ⅰの要約〔15点〕 解答例 52字

解答例：基本の用途は短く示し、詳しい背景は別の説明に分け、その場所を案内して、関心に応じて先を読めるようにする。

解説 道具を見るという全体目的を背景に、情報の二層化と案内を具体的に残す。
別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違っていてもよい。本文にない事実を補わない。
採点の目安 基本の短文5点／詳細の分離5点／場所を案内して進める5点。内容点を合計後、字数・指定語句・文末などの形式不備があれば2点減点する（0点未満にしない）。同じ不足を重ねて減点しない。

問6 限界を残す要約〔15点〕 解答例 64字

解答例：説明を分けない場合と比べておらず、協力者も来場者全体を代表していないため、全ての人に以前より分かりやすくなったとは結論できない。

解説 二つの未確認事項は比較条件と対象の代表性である。単に人数が少ないとするだけでは後者を十分説明しない。
別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違っていてもよい。本文にない事実を補わない。
採点の目安 比較していない5点／来場者全体を代表する選び方ではない5点／全員への改善を断定不可5点。内容点を合計後、字数・指定語句・文末などの形式不備があれば2点減点する（0点未満にしない）。同じ不足を重ねて減点しない。

D 展示を読む入口

実力確認テスト | 解答と根拠 | 100点満点 | つづき

問7 課題の要約〔15点〕 解答例 69字

解答例：別紙の場所を案内し、読む範囲に加えて道具の見方や疑問を確かめる。別紙を取る人数が増えても、知りたいことを理解できたとは限らないためである。

解説 次の行動と、その理由を結ぶ。取った人数を理解の深さと混同しない。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。
採点の目安 別紙への案内4点／道具の見方・疑問の確認5点／取得人数と理解の非同一性6点。
内容点を合計後、字数・指定語句・文末などの形式不備があれば2点減点する（0点未満にしない）。同じ不足を重ねて減点しない。

問8 二資料の統合要約〔15点〕 解答例 89字

解答例：基本と詳細の説明を分ける提案を試すと、別紙に気付かない人もいた。比較や対象の選び方に限界があり、全員への効果は断定できない。次は別紙を案内し、読み方と道具の理解の関係を確かめる。

解説 I と II を別々に縮めて並べるだけでなく、提案→観察→限界→次の確認という関係を作る。
別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。
採点の目安 情報の分離3点／別紙への気付きの問題3点／比較・対象の限界と断定回避5点／案内と理解の確認4点。内容点を合計後、字数・指定語句・文末などの形式不備があれば2点減点する（0点未満にしない）。同じ不足を重ねて減点しない。